

2024年8月5日

通貨ニュース

中南米：米株調整由来の急落に直面する 中南米通貨

7月29日週の新興国市場では、引き続き中南米通貨の軟調さが目立った(図表1)。引き続き、米株の調整に代表される市場ボラティリティ上昇、それに伴うキャリートレードの巻き戻しが大きな逆風になっている。G10通貨に目を移すと、当該週はJPYおよびCHFの騰勢が目立った。他方、売りが目立ったのは、AUD、CADといったハイベータ通貨だった。典型的なリスクオフ相場であったといえよう。

かかる中、8月2日には、BRL、MXNの双方が対ドルでの年初来最安値を更新するに至った。BRLは実に3年4か月ぶり、MXNは1年4か月ぶりの安値水準である。きっかけになったのはショッキングな結果になった米7月雇用統計であり、米株は急落、市場心理は大きく悪化した。VIX指数も急騰し、一時1年4か月振りの高水準に達した(図表2)。とはいえ、市場が徐々に落ち着くにつれ、米金利大幅低下を材料視してか、引けにかけては特にBRLは買い戻されている。前日比では、むしろ上昇した。

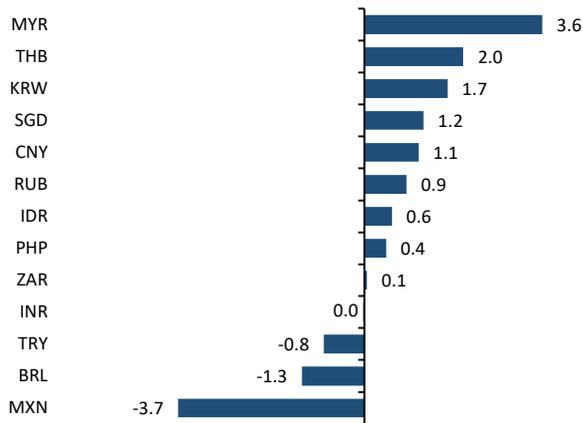
とはいえ、BRLおよびMXNの7月半ば以降の大幅下落は、本欄にとっては全くの想定外である。ブラジルでは財政プレミアムやブラジル中央銀行(BCB)への利上げ転換の催促が、メキシコにおいては弱めな域内経済指標が重しになっているとはいえ、両国のファンダメンタルズや金融政策動向が大きく変わったというわけではない。このような環境下においては、BRLとMXNの大幅安は、外部要因によって大部分が説明可能と考える。上述の通り、市場心理の悪化および米株の急速な調整が主因と考えている。それ以外では、もちろん資源価格全般の下落も嫌気されているだろう。

実際、7月以降で見ると、BRLおよびMXNは、米株との連動性が非常に高くなっている(図表3)。30日間の値動きの相関係数を確認しても、6月半ば以降明らかにその水準が切り上がっている(図表4)。こうした中、短期的には、引き続き市場心理および米株の動向に左右される展開が見込まれる。今後さらに事態が悪化し、事後的に「〇〇ショック」と表現される局面に至った場合は、BRL・MXNいずれも、さらなる急落は不可避であろう。

8月1日に発行した「エマージングマーケットマンスリー」では、年末時点の対ドルのレートの見通しに関し、BRLを5.25、MXNに関しては18.1とおいた。金融ショックを事前に予測し見通しを策定するのは悪手であるため、当座のところ見通しを変更することは考えていない。今後、市場のボラティリティが一服すれば、両通貨いずれもここもとの大幅安の一部は取り戻せると考えている。もともと、ブラジルでは財政プレミアムが、メキシコではメキシコ・米国の政治動向が重しになる中で、大幅な買い戻しは見込んでいない。それまでの相場動向を踏まえ、新たな見通しは9月2日発行予定の「エマージングマーケットマンスリー」で検討したい。

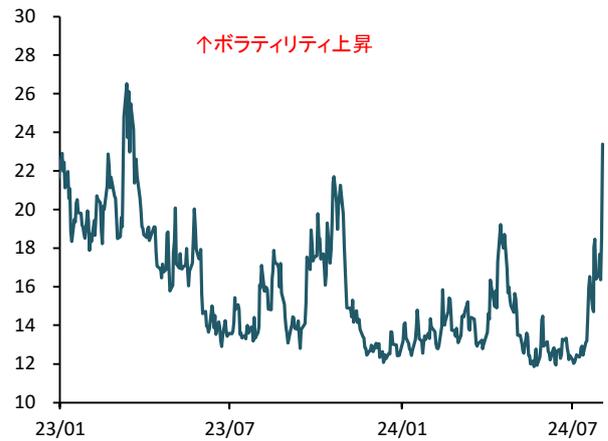
金融市場部
マーケット・エコノミスト
長谷川 久悟
03-3242-7065
kyugo.hasegawa@mizuho-bk.co.jp

図表 1: 7月29日週の新興国通貨のリターン(対ドル、%)



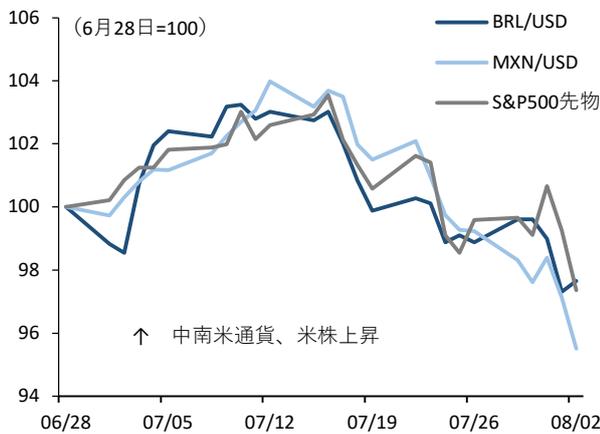
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: VIX 指数の推移



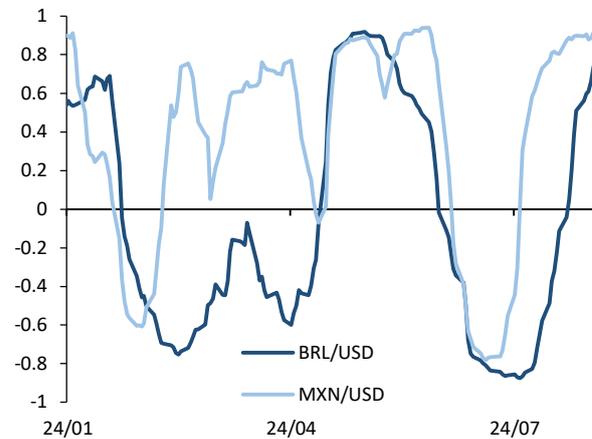
出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 3: BRL、MXN、S&P500 先物の値動き



出所: Bloomberg、みずほ銀行

図表 4: MXN と BRL の、米株との相関係数



出所: Bloomberg、みずほ銀行 ※過去 30 日の動きから計算

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。